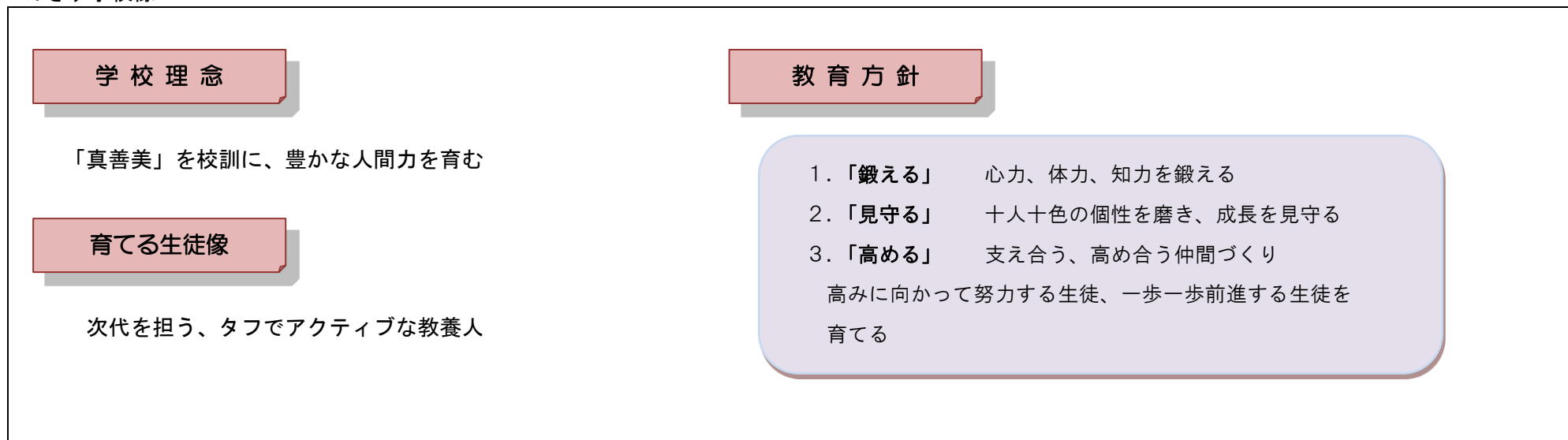
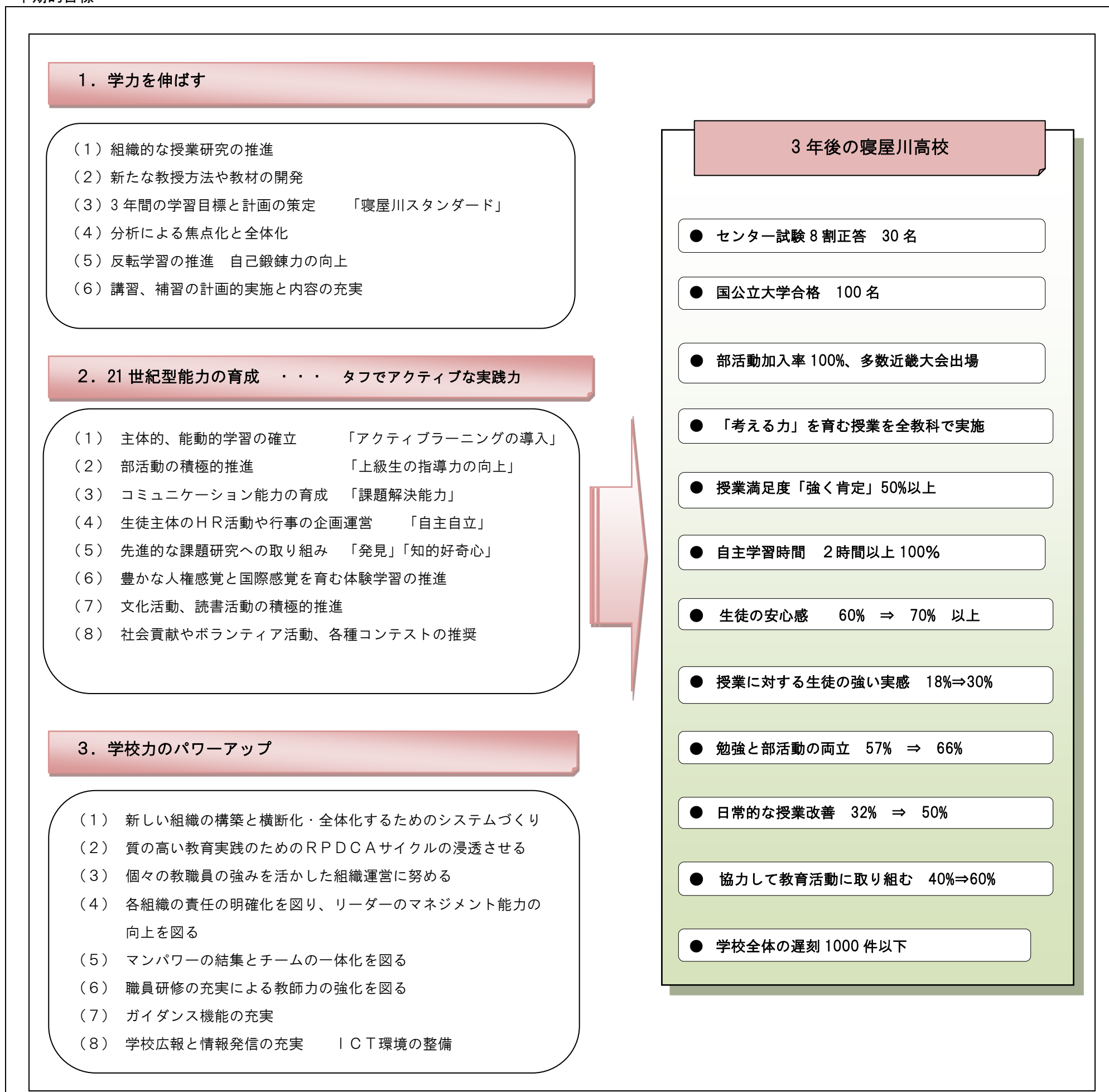


平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像



2 中期的目標



【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見										
<p>今年度実施の学校教育自己診断から質問項目の刷新を図った。大阪府教育委員会からの指示をもとに、寝屋川高校がめざす学校、学校教育目標に対して、自らの教育活動を振り返ることを第一義に内容の簡素化や文言の修正をおこなった。</p> <p>●今年度の課題設定と取組の重点</p> <p>中期目標を「学力を伸ばす」「21 世紀型能力の育成」「豊かな人権感覚と国際感覚の育成」「学校力のパワーアップ」と定め、今年度は特に研究開発室と「学習コーディネーター」を中心に生徒の学力向上に重点をおいて取り組んだ。また、21 世紀型能力の育成については、昨年度から取り組んでいるアクティブラーニングの要素を取り込んだ授業づくりによって「考える力の育成」にも重点項目にして取り組んだ。そして、学校力のパワーアップについては、今年度から学校組織を一新し、グローバル化や多様化、学校広報の充実など新しい時代や新たな課題に適応した学校運営を推進するため「総務企画室」「管理運営室」「研究開発室」「育成支援室」の 4 つの組織に改編した。また、情報の集中や共有、目標に向けた協働体制の強化をめざし、「大職員室の設置」を実現した。寝屋川高校の教育力を高め、学校の存在感をさらなる高みに向かわせる第一歩ととらえている。</p> <p>●【生徒】「入学してよかった」の質問に対して 3 年間の肯定的回答が 83%⇒82%⇒87% という非常に高い評価を得ることができている。特に全校生徒の 45% が「強く肯定」し、入学してよかったと思っている。「学習」「部活動」「行事」を 3 本柱に人間教育を丁寧に実践する本校の教育の営みに対する評価であり、安定した教育力を示すものだと考えている。一方で「全く満足できない」と回答した生徒が 80 名近く存在した (H24) のが 30 名程度に減少したことも、一人ひとりを大切にしたい、きめ細かな教育活動を実践し、「見守る」学校としての教育力が向上した証だと考えている。また、「入学してよかった」と強く肯定した生徒が、1 年 39%、2 年 44%、3 年 54% と上位学年になるほど数値が上がっていることも寝屋川高校の魅力であり、高い教育力を示すものである。</p> <p>●「学校には悩みを相談できる人や場所がある」近年、学校の中での居場所のない生徒や不安や悩みを抱えながら登校している生徒にとって、相談しやすい先生や場所が用意でき、生徒にとって安心できる学校だと云うには厳しい数字が寄せられていた。本校の大きな課題の一つとして取り組んだ結果、今年度は 72% の生徒が肯定的に回答した。教育支援コーディネーターを中心に教育相談委員会を復活させ、養護教諭が中心となって学年・担任との連携を密にとることに努めた。また、教員へのスーパーバイザーとして専門家との連携を深めたりして教育相談機能を高めている成果でもある。</p> <p>●「先生は生徒のことを真剣に考えてくれ信頼に値し、且つ教え方を工夫しよくわかる授業をしてくれる」と 86% の生徒が肯定的回答している。このことは、教員の「授業振り返りシート」の結果からも伺えるように、授業に対する教員の日々の創意工夫の積み重ねが生徒に伝わっていると考えられる。</p> <div data-bbox="195 1902 875 2190" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">《 参考 》「授業振り返りシート」集計結果から</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>■ ICT を活用した</td> <td style="text-align: right;">60%</td> </tr> <tr> <td>■ 双方向の授業</td> <td style="text-align: right;">78%</td> </tr> <tr> <td>■ 考える力の育成</td> <td style="text-align: right;">95%</td> </tr> <tr> <td>■ 言語活動を意識</td> <td style="text-align: right;">71%</td> </tr> <tr> <td>■ アクティブラーニングの要素を取り入れた</td> <td style="text-align: right;">65%</td> </tr> </table> </div> <p>●授業については、学力向上と同時に 21 世紀型能力の育成を目標に掲げ、授業づくりに工夫・改善を求めたところアクティブラーニングの要素を取り入れたり、ICT を活用したり、グループワークを取り入れたりと様々な試みが見られるようになった。次年度以降引き続き「生徒の学力をどう伸ばす」を大きな命題として「やる気」と「できた感」を大切にしたい授業づくりについての授業研究に取り組んでいきたい。また、生徒が主体的に学びに向かい、生きる力としての思考力をはぐくみ、「鍛えられた」と生徒が実感できる授業づくりに組織的に取り組んでいきたい。</p> <p>●【保護者】今年も 776 名 (66%) の保護者の方々から回答いただいた。この数年間 70% 前後で推移しているが、保護者の方々から学校へ高い関心を持っていただいているおかげだと感謝している。こうした貴重な声を学校へ寄せていただくことによって学校は刺激を受け、より良い学校づくりが実現していくものだと思っている。今後も学校と保護者が手を携えて子どもを豊かな人間力を備えた大人へと成長に導くためにも、風通しの良い学校経営を心掛けたい。学校の教育方針を発信し、願いや期待の応えるべく学校が努力していることについては、一定の理解が得られている。特に豊かな人間力という点については「学</p>	■ ICT を活用した	60%	■ 双方向の授業	78%	■ 考える力の育成	95%	■ 言語活動を意識	71%	■ アクティブラーニングの要素を取り入れた	65%	<p>●【第 1 回 5 月 28 日】テーマ：今年度の教育計画</p> <p>学校経営計画に準じた「校長ビジョン 26」を提示し、今年度の重点取組について説明し、</p> <p>●中学まで塾によるパターン化された学習に取り組んだ子どもたちが高校入学後にほっとしてしまい学習習慣が崩れ、家庭学習時間が極端に少なくなっている現実に対して、入学直後から学力生活実態調査を活用し、学びに向かわせる様々な工夫や仕掛けをされていることは今後に期待できるものである。データや分析結果を生徒の意欲にどうつなげるのか、担任の先生方のガイダンスに期待することが大きい。</p> <p>●大阪市からの入学生徒が減少したこと、塾への依存度、入学後の学習時間の減少など早急に分析し、何らかの取り組みが、夏休み前に打ち出せるとよいのではないかと。</p> <p>●「伸びしろがある生徒が入学し、そういう生徒を伸ばす学校」として寝屋川高校は存在感を発揮してほしい。遅刻・挨拶などの規律指導を徹底させ、部活動・行事をさらに活発にし、3 年時にぐんと伸びる学校というのは魅力が大きい。</p> <p>●子どもたちの心の負担へも配慮しつつ、人間力を鍛えることで学びに向かう意欲が高まり学力向上へと繋がるスパイラルを生み出す学校として大阪のモデルになっていただきたい。またそれを広く発信していただきたい。</p> <p>●【第 2 回 10 月 29 日】テーマ：前期取組の検証</p> <p>●授業改善について、様々な取り組みがなされているがめざすゴールが明確に示されていない。そのゴールに到達するために何をすべきか考えて取組を進めてもらいたい。</p> <p>●遅刻の数が減少しているのは大きな成果だ。次は、遅刻をする自分と、しない自分では何がどう違うのか考えさせてみてはどうか。自分をコントロールする力を養い、主体的に生きる力を育成することにつなげていくべき。</p> <p>●自学自習力を育成する上で、自習室を拡大確保、部活動との連動で考えるのは継続して進めてもらいたい。また、学習環境という点で、質問に答える教員がすぐそばにいたどうか、できた、勉強してよかったという実感を少しずつでも積み上げることの大切さをアナウンスしていくことも大切なことだ。</p> <p>●【第 3 回 1 月 28 日】テーマ：授業見学と今年度の検証と評価</p> <p><input type="checkbox"/> 本日のテーマ 「授業見学と今年度の検証と評価および次年度への提言」</p> <p><input type="checkbox"/> 本日の資料 「平成 26 年度学校経営計画および学校評価」「平成 27 年度学校経営計画および学校評価」「平成 26 年度学校教育自己診断結果と分析」</p> <p>●＜授業見学＞</p> <p>○ 使える英語教育をめざした ICT の活用 (2 年生英語)</p> <p>○ アクティブラーニングの要素を盛り込んだ化学の実験 (2 年生化学)</p> <p>委 寝屋川高校がめざす授業がよくわかった。</p> <p>委 オールイングリッシュでされたが、生徒の理解度はどうなのか。</p> <p>委 教材等にも工夫が凝らされ生徒の食いつきがすごかった。</p> <p>委 仮説を立てることも大切。知識の使いどころを用意してやることも授業づくりの要素としては大きなこと。</p> <p>委 授業を通してどのような力をつけたいのかがよく伝わった授業だった。</p> <p>委 個人のスタイル、工夫にとどまらずに教科の合意形成につなげてほしい。</p>
■ ICT を活用した	60%										
■ 双方向の授業	78%										
■ 考える力の育成	95%										
■ 言語活動を意識	71%										
■ アクティブラーニングの要素を取り入れた	65%										

習」「部活動」「行事」を通じてバランスのとれた人間育成を掲げる本校にとって、89%と

いう数字が持つ意味合いは大きい。学校の「生徒指導」は83%、「学習指導」は59%、「進路指導」は68%、「保健・健康指導」は81%の保護者の方々が肯定的に評価いただいているが、強く肯定いただいている割合が少し淋しく感じる。特に学力の伸びという点で保護者が感じておられる「もう一つ感」を埋める必要がある。しかしながら、保護者の信頼感という質問では肯定的回答が85%、部活動で子供が成長したと強く実感している保護者が50%にも上った。学校の教育方針においても、部活動に熱心にかかわっている教員にとってもまことに心強い結果となった。

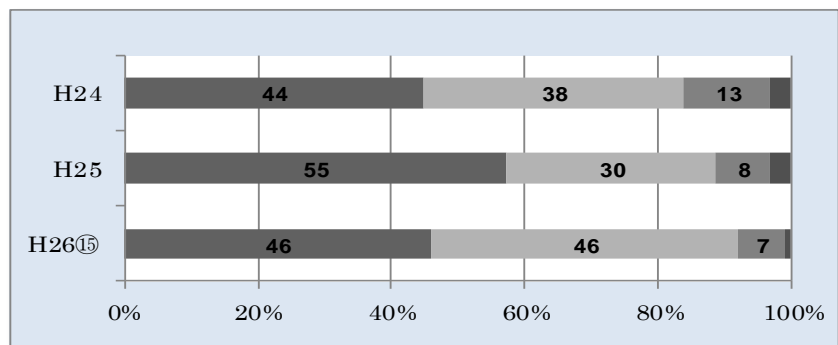
今年度新たにPTA実行委員会において同じ自己診断票を使って、自由記述も設けて実施したところ28名から回答があり、結果は「そう思う」と強く肯定いただいた数字が一般保護者の方々から頂いた数字よりも大きく上回っていた。

質問 1：願いや期待に応える努力	61.5%	—	24%
質問 2：教育方針や教育活動の発信	76.9%	—	24%
質問 3：豊かな人間力を育成	61.5%	—	22%
質問10：先生を信頼	61.5%	—	27%
質問12：部活動で成長	61.5%	—	50%
質問13：学園祭や体育大会の充実	61.5%	—	35%

となっており、特筆すべきは最後の「入学させてよかったと満足している」という質問項目に至ってはなんと**92.3%**となっている。

●総じて、保護者の方々からは、本校教育方針にご理解をいただき、日々の教育活動にも高い評価をいただいている。しかしながら、学習活動のより一層の充実や教育環境の整備については比較的大きなご指摘を受けたと受け止め、次年度以降の教育活動の益々の充実につなげていきたい。

＜入学させてよかったと満足しているか＞



【教職員】

平成24年度に実施した学校教育自己診断結果において、教職員の協力(68%)各分掌、学年間の連携(43%)組織的な対応(68%)という結果であったが、質問項目の1「学校教育目標が共有され、全員で協働して組織的な教育活動に取り組んでいる」では、**79%**の肯定的回答を得た。

今年度、大職員室の設置や組織の改編、また教頭・首席を中心とした学年主任会議や室長会議を設けることで連携が高まり意識の変化につながっているのではないかと。全質問項目の平均値は79%であり、最低値は質問12の「自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間が確保できている」の48%、最高値は質問6の「特別活動、部活動は人間力を育成するうえで大きな意味がある」の96%となっている。授業時間数の多さ、教材研究にかかる時間、補習講習の準備、部活動の付添、事務作業など日々の現実については多くの教員が多忙感を抱いているという結果であった。少しでも多忙感の解消につながるような「業務のスリム化と合理化」について策を講じていきたい。また、一人一人の先生方が「やりがい」や「オーナーシップ」を持つことができる職場環境づくりにも校長として傾注していきたい。課題としては「PDCAサイクルの浸透」「新たな課題や生徒の実態に適切に対応」「人権教育体制」「教科で教育計画や評価について議論」の4項目についてであり、「強く肯定」が20%以下となっている。次年度以降、全員で課題意識を共有し、学校として衆知を結集して新たな仕組みや仕掛けづくりに取り組んでいきたい。

＜今年度の検証・評価及び次年度への提言＞

●「学力向上」の取り組みについて

- 委 授業研究については「授業アンケート」結果や、「授業振り返りシート」の結果の数値からも大きな上昇傾向が見られる。今後は、個人の取り組みを共有し全体化することも考えられたし。
- 委 外部模試を学力向上のツールの一つとして活用するという新たな試みは、共通理解を深めることと、個々の教員が生徒にどう迫るのか、寄り添うのかということに成果がかかってくる。ガイダンス機能の質にも拘っていただきたい。
- 委 コース制を進学に特化したものに変更されたことが今後どのような結果に結びつくのか注目したい。

●「豊かな人間力の育成」

- 委 遅刻の半減については大きな成果だろう。今後も続けていただきたい。人としての基礎づくりの面で1年生への指導をどう始めるのかも大きなことだと思う。
- 委 自己診断結果から本人・保護者ともに部活動で成長したと感じているということだが、社会に出てからの生きる力を考えたときに、この数字は興味深い。
- 委 人権教育について課題意識が高い。次年度への課題として取り組んでもらいたい。

●「学校力の向上」

- 委 授業研究についての機運を特別なものとせず、常態化する文化として育ててほしい。そうすることが学校力の向上につながり、生徒・保護者の満足感にも結果として出てくるだろう。
- 委 自己診断結果にあるように、先生方は「自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間の確保」に課題があると回答されている。新たな取り組みが増えれば当然エネルギーも業務量も増えてくる。今後は、伝統を維持することも大切だが業務の合理化、スリム化も検討されゆったりと生徒に向き合ってほしい。
- 委 単に点数を上げるだけでなく全人的な教育活動をくりひろげられていることが見て取れた。そして、先生方が学ぶ集団となっているようにも感じた。ぜひ授業見学・交流をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力を伸ばす	(1) 新設した研究開発室が中心となった授業研究会の実施 (2) 新たな教授方法や教材の開発 (3) 学習目標と学習計画の策定 (4) 分析による焦点化と全体化 (5) 自学自習力の向上	(1) 大学や様々な機関と連携した研究会の実施 (2) 先進高校の見学、事例研究会 (3) 研究開発室主導の教科代表者との連絡会議の新設 (4) 外部業者との協働作業による学力分析とフィードバック、全体情報交換会の実施 (5) 反転学習の推進	(1) 研究会の実施 年間3回 (2) アクティブラーニング 授業導入率 50% (3) 連絡会議 年間3回実施 (4) 会議の回数 随時 (5) 反転学習 授業導入率 30% (6) 「日常的に授業改善に努めている」教員の割合 30%⇒50% (7) 「授業に興味深く力がついたら実感できる」生徒の強い肯定的回答 18%⇒30%	◎授業研究会 ・公開研究会 3回実施 ・校内研究会 6回実施 ・大学との連携 2回実施 ◎先進事例の学校訪問 (新) ・5校へ学習コーディネーターを中心に20人参加(東京国際高校他) ◎訪問報告を職員会議でのプレゼン3回 △教科による学習目標と計画 ◎業者模試の全員受験 (年間2回)(新) ◎業者模試を学習への意欲喚起に(事前、事後分析を生徒へフィードバック) △反転学習 3月研究会の実施予定 ・広がりという点ではまだまだ ◎教員の授業振り返りシートの提出(新) ・授業についての学校目標の浸透とその把握 ○10月(1年)勉強合宿80人 ○12月(3年)(9:00-21:00)30人(新)
二十一世紀能力の育成	(1) 部活動の積極的推進、寝屋川高校の誇りの浸透と上級生の指導力の向上 (2) コミュニケーション能力の育成 (3) 生徒主体の行事の計画と運営 (4) 読書活動や文化活動の充実 (5) 豊かな人権感覚と国際感覚の育成 (6) 英語運用能力の育成	(1) 生徒会による部活動説明会の工夫と上級生ミーティングの実施 (2) アクティブラーニングの導入と実践 (3) 学園祭とコーラス大会の充実 ・生徒会組織の活動強化 ・生徒会主体のキャンペーン実施や生徒のアイデアによる行事の工夫 (4) 読書マラソンの実施や読書コンクールへの積極的参加 (5) 65分授業及びCALL教室を活用した授業研究 (6) 新しい英語講習の開講やコンテスト (7) 人権体験学習の充実	(1) 部活動加入率90%と退部率10% (2) アクティブラーニングの導入率40% (3) 行事に対する満足度「強く肯定」が50% (4) コンクール、コンテスト入賞者10名以上 (5) 勉強と部活動の両立 肯定回答55%⇒65% (6) 英語運用能力の指標	◎部活動入部率 92% ◎授業研究 ・アクティブラーニング導入率 57% ・言語活動導入率 76% ◎英語アトバンセミナー(年20回)90人(新) ○学校行事強い満足度 49% ◎学習と部活動の両立 65% ◎コンクール、コンテスト表彰 ・書道部 4人 ・美術部 16人 ・吹奏楽部 多数 ・読書感想文 6人(旺文社2人) ・英語スピーチコンテスト 2人 ・献血ポスター 4人 ○人権体験学習の実施 ◎国際交流活動の活性化 かが、台湾、インドネシア 大阪府国際課との連携
学校力のパワーアップ	(1) 新しい分掌組織の構築 ・総務企画室・管理運営室 ・研究開発室・育成支援室 (2) 組織の横断化と全体化 (3) 個々の教員の強みを活かした組織運営 (4) マンパワーの結集とチームの一体化 (5) 職員研修の充実による教師力の強化 (6) ガイダンス機能の充実 (7) 医療機関と連携した教育相談機能の充実 (8) 学校広報と情報発信 (9) 大職員室の整備と様々な情報の中枢としての機能の充実	(1) (3)室長、副室長、室専任による運営と各室が責任を持った組織運営、RPDCAの浸透と定着 (2) (4)校長ビジョンに対するチャレンジシートを活用した目標の共有とベクトル揃え (3) 学力向上担当首席と組織運営担当首席、コーディネーター制度の新設 ・学習コーディネーター ・人権教育コーディネーター ・教育相談コーディネーター (5) 首席と総務企画室による教師塾の実施と計画的な職員研修 (6) ガイダンスルーム、スペースの確保とコーチングのスキルアップ (7) 総務企画室に位置付けた広報と発信	(1) 自己診断「全員が協力して教育活動にあたっている」の肯定回答が60%⇒70% (2) 「評価検証を次年度に生かしているか」の強い肯定回答が25%⇒40% (3) 職員研修が計画的に実施されたかどうか ・人権 ・安全、防災教育 ・生徒理解 ・教科指導 ・部活動指導 (4) 「親身に相談に応じてくれる先生が多い」の回答が60%⇒70% (5) 学校案内のリニューアル (6) ホームページの更新頻度 週に1回 (7) 「入学させてよかった」保護者の満足度、強く肯定回答が50%⇒60%	◎教職員自己診断結果(新) ・目標の共有と協働 79% ・PDCAサイクルの浸透 65% ◎生徒自己診断(新)結果から ・相談に応じる先生 72% ○保護者自己診断(新)結果から ・入学させてよかったと強く満足 50% ◎職員研修の実施 8回実施(3月予定) ・人権 1/29 ・部活動指導 4/24 ・安全管理 12/5 ・教育相談 5/28、10/29 ・授業づくり 6/28、8/22、12/11 ◎学校案内パンフのリニューアル ◎学校説明会用ちらしの作成(新) ◎1年生による中学校里帰り訪問、PR ◎ホームページの内容のリニューアル ◎進路ガイダンススペース新設 ◎大職員室の新設とインフォメーションボードによる連絡 ○生徒手帳の新規作成 ・スケジュール管理と学習計画 ◎学校外との連携強化 ・大阪教育大学を中心にしたコンソーシアムの幹事校 ・大阪国際大学との教育協定